

国際標準キャッチアップ



モノの規格

モノの規格の現況は？

現在、ISO／TC249において、鍼灸関係のモノの規格の対象は「鍼や鍼以外の医療機器の品質と治療や治療効果を除くこれらの医療機器の安全な使用」となっていますが、実は2018年に「施術者への伝統医学の教育及びトレーニングをTC249のScopeで扱うかどうか」に関する投票が行われて否決されるまで、幾度となく鍼灸の教育やトレーニングに関わる提案が行われてきました。

今後も我が国の臨床・教育に影響の及ぶ提案が行われる懸念が払えず、予断を許さない状況が続きます。TC249の国内審議団体であるJLOM(30頁参照)で主査・エキスパートを務めておられる先生方に現況をお聞きしました。

ISO／TC249で現在進行中のモノの規格について教えてください。

新原…TC249で鍼灸関連のモノの規格を扱っているのはWG3とWG4です。WG3は鍼を対象としており、最近、滅菌済単回使用三菱鍼のコンサルテーション(書面による審議)が始まりました。プロジェクトリーダーを中心に作成された提案書(ワー

キングドラフトWD*)に対して、各国から参加しているエキスパートがコメントしたり、修正案を提案したりすることです。また、すでにWG3での審議を終えた皮膚鍼タッピングタイプとローラータイプがIS(国際標準)に向かつて次の段階に進んでいます。他にも韓国からカップリングに関する提案があったのですが、新規項目として取り上げられませんでした。WG3では、すでに国際標準規

格にしたいモノが出尽くした段階だと思います。

※WGでは、案件ごとに、主に提案国からのプロジェクトリーダーが各国から立候補したエキスパート(ノミネイテッド・エキスパート)と提案をまとめる。

—これまでに国際標準になった規格の定期的な見直しも順次行われるとお聞きしました。

新原…すべてのISO国際標準規格が5年ごとに見直しをすることになっています¹⁾。WG3で最初の国際標準規格は「滅菌済単回使用毫鍼(ISO17218…2014)」で、すでに見直し

始まっています。マニユファクチャラー(製造元・メーカー)の団体である日本理学療法機器工業会(以下日理機工)からのエキスパートが対応して下さることになっていて、新規案件同様、プロジェクトリーダーがコンサルテーションに回し、各国エキスパートからのコメントを集め、それを集約してまとめます。特に従来と内容の変更はないと思います。

—WG4はいかがですか？

木村…WG4は鍼以外の鍼灸向け医療機器を対象としていますので、非常に範囲が広く、様々な提案が出てきています。今年は棒灸の品質管理、耳のツボの電気刺激治療器、カップリングの付属機器の一般要求事項などの新規提案がありました。また、サウジアラビアから提案されたカップリングの安全規格と磁気治療器がWDになっていきます。そして、初期に国際標準となった「灸機器に関する一般要求事

参加国は22+24カ国

—サウジアラビアですか。鍼灸は少なくとも世界の113カ国で行われているとお聞きしたことがあります²⁾が、国際標準の策定にも様々な国が参加しているので、現在ISO／TC249に参加しているのは何カ国ですか？

田口…提案・投票権のある参加国(Participants)は22カ国で、提案・投票権のないオブザーバー(Observers)は24カ国です。ちなみに英国・米国は参加していま

せん。米国は当初参加していたのですが、トランプ政権で政策が変わって脱退したのです。また、英国は独自の認証機関があり、ISOに劣らない影響力があるようです(表2)。

—国家標準や国内規格がない国から、国際標準を提案することはあるのですか？

参加国

それぞれの思惑

新原…あります。先に、参加国の思惑を整理したほうが良いかもしれませんね。これは大きく3つの立場にまとめることができると思います。

- ①中国は、中医学を産業として世界に輸出したいと考えています。
- ②鍼灸の資格制度がない国も参加しており、それらの国では有害事象が起きないような対策を必要としています。教科書的なものを国際標準として作ってくれ



木村 友昭
JLOM ISO/TC249 WG4 主査

新原…たとえば中国では、すでに中医学の国家標準（Guojia biaozhun-GB）が策定されており、それに近づける形で規格案を出してきています。韓国の国内規格はよくわからないのですが、日本にはJIS規格（日本産業規格）があります。鍼灸に関係するものは、今のところ「単回使用毫鍼（JIS T 9301）」だけです。



田口 太郎
JLOM ISO/TC249 WG3・4 エキスパート

田口…名刺を拝見すると、研究所か大学の方（アカデミア）が多く、たまに臨床家の方もおられます。メーカーの方は少数のようですが、最近出てきた磁気治療器など、具体的な利害のある案件は別です。なぜアカデミアが出るかといえば、メーカーさんは他社のメリット・

デメリットがわかりにくい場合もあるでしょうし、それを俯瞰的に見る立場が必要だからだと思います。また、エビデンスベースの話をする場合もアカデミアが必要だということになるでしょうね。

新原…たとえば中国からの提案では、モノの規格であっても、メーカー関係者が関わっていないように見受けられる場合があります。アカデミアが特許を取る、論文を出すなどの業績のために、もしくは国策に沿ってやっているように見えます。

WG3で現在進行中の三稜鍼についても、モノを作る立場でない方々が書類の体裁だけを整えたとしても、実際に製造される場合の細かいことはわからないだろうと心配になります。つまり、ISO／TC249の参加国がすべて「良

国家標準や国内規格がある場合

れば、国に対しては患者さんに対しても臨床家に対しても意見が言いやすいという期待があるようです。

③韓国などのように鍼灸の資格制度があつて、鍼灸関連の製品も作っている国は、妙な国際標準を作ってもらつては困るので参加しています。日本も③のグループに入ります。

木村…皮内鍼（皮下鍼）も毫鍼の変形版の短い鍼（滅菌済み鍼）としてJIS T 9301でカバーしています。もう1点、JIS規格とは別に、医療機器の認証基準があります^③。医療機器として使われているものは、定められた範囲で管理されています。

—新しいISO規格は、それらの国内規格と齟齬が出ないように作られることが望ましいわけですね？

各国からのエキスパートはどんな人？

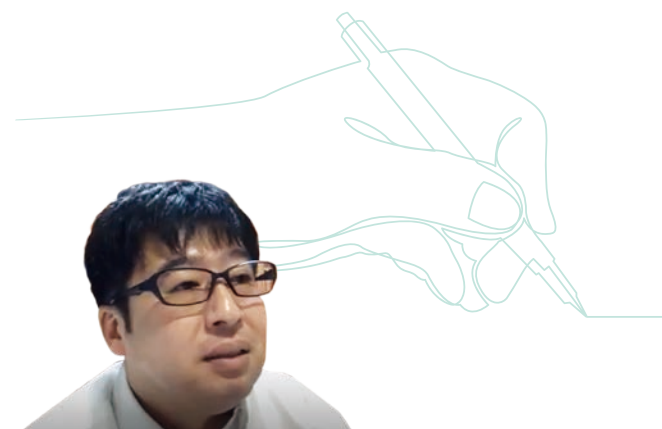
ISO規格からの影響を受けることになります。単回使用毫鍼はまさにそういうケースです。^{*}

※単回使用毫鍼のJIS規格はISO17218・2014を受けて改正された。

木村…最近参加してきた国からは、行政の方も参加されているかもしれません。

表1 鍼灸関係の主な国際規格進捗状況（IS：国際規格、TS：技術仕様書、TR：技術報告書）

照会番号	内容	NP: 新業務 項目提案	PWI: 予備業 務項目	AWI: 新規業 務項目	WD: 作業 原案	CD: 委員会 原案	DIS,DTS, DTR: 照会原案	FDIS: 最終国際 規格案	IS,TS, TR: 発行	SR: 定期 見直し
ISO 17218:2014	滅菌済単回使用毫鍼									
ISO 18666:2015	灸機器に関する一般要求事項									
ISO 18746:2016	滅菌済単回使用皮下鍼									
ISO 20498-2:2017	コンピュータによる舌診解析システム パート2：光源環境									
ISO 20308:2017	刮痧器具									
ISO 19614:2017	脈波圧トランスデューサ									
ISO 19611:2017	吸引式吸角機器									
ISO/TR 20520:2018	鍼の感染制御									
ISO 20495:2018	皮膚電気抵抗測定器									
ISO 20493:2018	赤外線灸機器									
ISO 20487:2019	通電用単回使用毫鍼の試験方法									
ISO 21366:2019	無煙灸機器に関する一般要求事項									
ISO 21291:2019	治療用燻蒸機器									
ISO 20498-1:2019	コンピュータによる舌診解析システム パート1：一般要求事項									
ISO/TS 20758:2019	腹部生理学的パラメーター検出器									
ISO/TR 20498-5:2019	コンピュータによる舌診解析システム パート5：舌質と舌苔の色の取込みと表現方法									
ISO 22236:2020	単回使用埋没糸用鍼									
ISO 21292:2020	電気温灸器									
ISO 18615:2020	電氣的機骨動脈派圧測定機器に関する一般要求事項									
ISO/TS 20498-3:2020	コンピュータによる舌診解析システム パート3：カラーチャート									
ISO 22466:2021	レーザー鍼機器									
ISO/PRF TS 20498-4	コンピュータによる舌診解析システム パート4：周辺視覚機器									
ISO/FDIS 22213	ガラス製吸角機器									
ISO/DIS 24571	鍼電極低周波治療器の基礎安全と基本性能に関する一般要求事項									
ISO/WD 22587.2	貼付型磁気治療器									
ISO/DIS 23958-1	単回使用皮膚鍼 パート1：タッピングタイプ									
ISO/DIS 23958-2	単回使用皮膚鍼 パート2：ローラータイプ									
ISO/CD 5227	吸角機器の安全制御									
ISO/PWI 24655	単回使用刀鍼									
ISO/AWI 6559	単回使用三稜鍼									
ISO/TS 6818	艾の灰雑物濃度に関する試験方法									
TC249 N1380	迷走神経が分布する耳介部経穴への経皮的電気刺激装置									
TC249 N1381	吸角装置および補助装置の一般要求事項									
TC249 N1223	棒灸の品質管理									



新原 寿志
JLOM ISO/TC249 WG3 主席

表2 ISO／TC249 参加国

ISO/TC249 参加国 Participating Members 22	ISO/TC249 オブザーバー Observing Members 24
オーストラリア	アルゼンチン
カナダ	バーレーン
中国	ブルンジ
チェコ	エジプト
ドイツ	フィンランド
ガーナ	フランス
ハンガリー	香港
イタリア	インド
日本	イラン
ケニア	アイルランド
韓国	イスラエル
オランダ	リトアニア
ノルウェー	マカオ
ポルトガル	モンゴル
ロシア	ネパール
サウジアラビア	ニュージーランド
シンガポール	ポーランド
南アフリカ	ルーマニア
スペイン	セイシェル
スイス	スウェーデン
タイ	トーゴ
ベトナム	チュニジア
	イギリス
	ジンバブエ

モノを作って流通させたい」という純粹な参加ではないし、そもそも規格を作る意味があるのか疑わしい案件も多いのです。

木村…鍼灸領域のモノを輸出しているメーカーをもつ国は少ないのですが、実際に製造や製品試験をしている方々でないと、規格の提案内容が妥当なのかどうか、わからないでしょう。このような現状が望ましいかといえばそうではないと思います。メーカーの知見とユーザー（臨床家）やアカデミアの視点が揃っていることが必要ではないかと思っています。

国際標準の メリットと デメリット

—それでは、国際標準規格ができることのメリットとデメリットは？

者）を探します。主にメーカーさんですが、今回の三稜鍼の件では、ユーザーとして日本刺絡学会からもエキスパートを出していただきました。全日本鍼灸学会では刺絡について把握しきれない点もあるからです。そして、案件が審議に進んだら、プロジェクトリーダーがまとめたWDの内容をチェックし、日本としての賛成の可否を決めます。

—すでに国内製品があれば、齟齬がないか突合せをされて、国内製品のない場合でも、国内の意見を集約し、代表して意見を述べたり、投票で賛成・反対をされるということですね。

新原…WG3では、さきほどお話しした日理機工を代表してセイリン（株）の中野亮一さんが私と一緒に主査を務めて下さっています。モノの規格内容については中野さんが進めて下さいますので、私の方ではアカデミアとしての意見

田口…個人的には、単回使用毫鍼・皮内鍼（皮下鍼）の国際標準以外には、特にメリットを感じません。メーカーさんにとっても、国際標準などない方が、臨床家のニーズをとらえた自由な商品開発ができますし、輸出展開も考えやすいのではないのでしょうか。

ISOは非営利のNGOですが、各国の利害が直結します。

①良い規格を作って国際的に流通させてお金を稼ぐ

②変な規格を作らせない
という2つの仕事があつて、日本は、特に鍼灸に関しては「規格を作りに行っている」わけではなく、「変な規格が作られないように」参加していると言ったほうが良いでしょう。

ただ、さきほどからお話に出てくるサウジアラビアからのカップリングの提案など、国内に基準がないので安全性に関わる問題が発生しているような話を聞いてしまうと、「日本には関係のない規格だから必要ない」とは言いにくいですね。

をまとめたり、全日本鍼灸学会で報告します。

木村…WG4で鍼灸領域に直接に関連するモノについてはメーカーから（株）山正の金安義文さん、アカデミアは私の二人で主査を務めています。範囲が広いので、工業製品で日本に規格のあるもの、できるだけ日理機工の方に参加してもらえよう願っています。

TC249が 始まって11年

木村…私はDISに進んだ鍼電極低周波治療器のプロジェクトリーダーをしています。この件がISO/TC249に関わるきっかけでした。

—この案件はとても長い時間がかかっていますね。何年くらいになりますか？

木村…日本では、臨床家のニーズに合わせたクオリティの高い製品が製造・販売されているのに、日本の実態にそぐわない国際標準規格ができて、それに準拠したモノが輸入されると、日本の市場が混乱してしまう可能性があると思います。それならば日本から規格を提案すれば良いだろうというご意見もあるかもしれませんが、関連するすべてのメーカーさんに人を出してくださいとも言いがたいのです。国内市場が大きくない中で、「儲からないのだけれど、作るのをやめたら鍼灸の先生方が困るだろうから」といつて作って下さっているメーカーさんに負担はかけられません。

—近年、国内の三稜鍼メーカーさんが廃業されたり取り扱いを止めたりされているとお聞きしますが、売れないことも理由のひとつだと思います。マルチユースの道具でも、ユーザーが買い支えるという意識を持って、道

木村…2012年からですから、9年目です。私は当初、国内の鍼電極低周波治療器の医療機器第三者認証基準に関わっていました。その基準に齟齬のある国際規格ができては困るので、TC249に関わることになったのです。2016年に、電気医療機器などで国際電気標準会議（IEC）とジョイントしなければいけないという議論が出てきたのですが、IEC側のエキスパートが集まらず、2019年にジョイントワーキンググループが解消され、ISOの単独規格となったのです。電気はIEC、それ以外はISOという原理原則に合わない形で国際規格ができてきたわけですね。

—新原先生は何年ぐらい携わっておられますか？

新原…6〜7年ですね。韓国が鍼治療の感染制御、また、中国が危険穴における安全な鍼灸臨床とい

具を守ることが業を守ることでもありますよね。

まずは 国内の産業を 守ることから

田口…まず国内の産業を守ることが必要です。国際標準は、どの業界においても攻守の両方が必要で、誰かがやらなければならないことだと私自身も理解しているのですが、このような仕事が必要であることが、国内でもあまり知られておらず、さほど評価もされません。だからと言って知らん顔をしてスルーして良いのか？と考えながらやっています。

どんなお仕事ですか？

—先生方がISOでされているお仕事をお教えください。

新原…新規の案件が出てきたら、まずステイクホルダー（利害関係

う案件を出してきたときからです。これらはモノの規格ではないので、今考えれば、TC249で扱う範疇を越えている案件です。

当初はルール違反が 横行していた

—最初の頃は会議の進行も大変だったとお聞かしています。

新原…ルール違反が横行していたのです。議事録を書き換えたり、本来多数決で決めてはいけないことになっているのに多数決に持ち込んで、そのときだけ人が大勢入ってきて挙手していたり。

田口…会議以外の時間でも、ホテルのロビーや食事のテーブルで他国の代表と話そうとすると、スパイのような人が近づいて来たり。

—伝統医学をめぐる国対国の利害については『ゴルゴ13』の題材になったこともありますね。

新原…毎年の全体会議には ISO 本部の方々も参加していたのですが、ルール違反があっても指摘されなかったのです。日本規格協会の伊賀洋一さんが TC249 の総会に参加して、ISO のルールについて再確認して下さって以来、ディレクティヴズという ISO のルールブックに則って運営されるようになり、一気に改善されました。

—今はコメントテンプレートという書式を用いたコンサルテーションが行われているのですね。どの意見も平等な扱いを受けるわけですね。

新原…証拠が残りますしね。

会議では 瞬発力が必要

—田口先生はいかがですか？

田口…私は 2016 年のローマ会議から参加しました。会議はすべて英語で行われるのですが、私は主に聞き取りに力を入れていました。書類のやりとりは時間をかけて対応できますが、会議ではその場で対応しなければいけないこともあるので、聞き逃さないようにしなければ、そのつど必要なアクションができません。また、会議以外の時間に各国とコミュニケーションすることにも力を入れてきました。

—事前の準備も大事ですし、会議も、そのときの雰囲気や流れが変わっていくのですね。バトルするための心の準備が必要でしょうか。

田口…バトルではなく、国際協調ですよ（笑）。一国だけでは何も決められませんので、大きな流れを変えたいときはよほど準備しなければいけません。

リアルと オンライン

—COVID19 の影響で、ISO/TC249 の会議もオンラインになりましたね。会議の進め方は変わりましたか？

新原…WG3 は議長の求めている結果が出るまで、何時間も議論が続きます。日本としては抗議しなければいけないのですが、十分にできていません。

木村…オンラインですとロビー活動やプレミーティングができない中で会議が始まるので怖いですね。顔色もわかりづらく、言葉以外の情報量が少ないです。田口先生がニュアンスを聞き取って下さるの、助かっています。

田口…今年の WG3 会議では TC249 議長の Shen Yuanrong さんが飛び入りで参加しましたが、もちろん相応の目的があつてのこと

とです。リアルな会議ですと、各 WG の会議に議長が出席して積極的に意見するなどということはあり得ませんから、オンラインはやりにくいところがあります。

—会議運営がリアルとオンラインで異なるわけですね。これからしばらくオンラインになりそうですか？

新原…予算のこともありますが、これからしばらくはオンラインが推奨されることになると思います。この流れは止まらないでしょう。

—コロナ禍以前は、会議への出張が大変だったのではありませんか？

木村…そうですね。毎年、全体会議への出張は、ほぼ 1 週間がかりでした。しかも空港と会場の往復で、自由時間もほとんどありませんでした。オンラインになってから、そのような負担は減りました。

サービススタンダードとは

—今年の会議では、サービススタンダードの提案が出ましたね。

新原…ISO/TC249 では、臨床や教育はスコープ（審議対象）に入っていない。果たして臨床や教育に関わらないサービススタンダードが作れるのでしょうか？

木村…医療分野のサービススタンダードとしては、ISO9001 の医療機器特化バージョンともいえるような ISO13485（医療機器・品質マネジメントシステム・規制目的のための要求事項）があります。

—その ISO13485 に近いものを目指しているのでしょうか？

木村…中国は、本当は臨床や教育も対象としたのだと思います。サービスの質を規定する規格をつ

くることで、ISO9001 のような認証ビジネスをしたいのです。ビジネスの世界では、認証機関にコンサルティング料を払って「ISO〇〇に準拠しています」というお墨付きをもらうことがビジネスチャンスにつながるわけですね。しかし、新原先生のおっしゃったように、臨床や教育に関わらないサービススタンダードができるのかどうか、わからないですね。

田口…モノの提供のしかたすべてを大枠で捉えると大変なのですが、たとえば鍼の太さ別のカラーラベリングなどというのもサービスだと思っています。議事録には出ていませんが、この前の WG3 会議のフリートークで他国のエキスパートが提案していました。是非はともかく、そのようなことであれば、サービスの国際標準とすることも可能でしょうね。

—今は、サービススタンダードは WG2（生薬を用いた製品を対象とする WG）で、製品に関するものに限りという条件つきで審議されているのですね。

新原…WG2 が引き受けなければ新しく一時的な WG を作るという話になりかけていましたし、そのときの議長によっては強引に押し進めてくることもあるでしょう。WG2 が引き受けたのは苦渋の選択ですね。

資金と人材

—このように何年も続く国際会議には、継続的に対応できる人材が必要ですね。中国は中医学、韓国は韓医学を国の医療資源として正式に位置付けていますし、十分に予算を投入しているように見受けられます。また、人材の厚みも感じられます。日本ではそうしたバックアップが不足していますし、この先会議が続

くほど、人材が不足していくのではありませんか？

新原…日本では鍼灸関係のどの学会も同じ問題を抱えていますし、厚みがあれば人は出てきます。近年、大学の教員は業務が増えて忙しくなっていますので、それを踏まえて協力者を募らなないと、継続は難しいですね。

—この先、アカデミアやメーカーさんでない方々にも関わっていただくことになりますか？

新原…優秀な方は大勢いらっしゃると思いますが、国と国との利害関係が絡み、機密事項も発生し得る会議です。当事者には悪気がなくとも情報が筒抜けになることもありますので、慎重に検討する必要がありますね。

—先生方は、経費は出るが報酬はないという状況で長年この会議に携わってこられました。その

モチベーションはどこから出ているのでしょうか？

田口…もともと、木村先生も、新原先生も、私も、出身校や学会の先生、先輩方からスカウトされたのです。新原先生がおっしゃったような理由で、ある程度人柄が把握されていることも必要だったのでしょうか。時々迷うこともありましたが、日本の鍼灸は日本の医療文化だと思えますし、それを守る仕事は誰かがする必要があると思っています。

国は雇用の創出を望んでいる

新原…日本の国内事情としては、経産省がJLOMに予算を出してくれていますが、期待されているのは、国内の雇用に創出して利益を生んでくださいということ

す。私たち伝統医療関係者は防御も大事で、日本の伝統医療が守られた結果、将来ビジネスになる可能性があると考えますが、経産省は防御にはお金を出せないと言っているのです。

—それでも、このお仕事はずっと続くわけですね。

田口…終わると思えません。ISOも継続の方向を向いていると思います。中国が当初目標としていたのは、発展途上国に中医学の養成校を作って鍼灸の国家資格も臨床もそれに合わせてもらうことだと思えます。製品↓プロセス↓サービス↓システム↓人↓組織と段階を踏んで会議は進んでいくでしょう。今はWG3もWG4もモノの規格を対象としています。私は、日本にとってはTC249がなくなる方が良く思っているのですが、続く限りは防御の意味

攻勢に回る方法は？

—ずっと防御するのはつらいですね。攻勢に出る手段はありませんか？

新原…いま時間稼ぎをしている間に、海外に日本の鍼灸や道具の特長を広めていただけたら良いと思います。特にISO/TC249に参加していない米国・英国で日本の鍼灸を知っていただければ。中医学や韓医学だけでなく、日本の鍼灸もあることが情報として確立されていないところが問題です。情報発信をして日本鍼灸に関心を持って下さる方々を増やすことが攻勢にまわることに繋がりますし、それでこそISOへの参加意義

があるでしょう。そのような将来設計を見せた上でJLOM活動に協力して下さいと言いたいです。

—日本のいくつかの流派は、海外で積極的にセミナーを行って評価されていますね。また、英語・日本語で日本の鍼灸臨床を紹介する『北米東洋医学誌』は1994年の創刊以来27年間で82号まで発行されています。ちなみに、この雑誌には日本の鍼やもぐさの広告も掲載されています。

「日本の鍼灸とは何か」が説明できること

新原…「鍼灸は中国が発祥だ」とする説を聞いたことがあります。何か優れたものがあると、自国のオリジナルだと言ってしまう、いわゆる文化の篡奪が起きかねません。日本の鍼灸文化・技術をきち

んと残して発展させるための活動が必要ということです。大きい目で見て、今何をしなければいけないかを考える必要があります。

田口：What is Japanese Acupuncture?と聞かれて答えられないことが弱点です。流派による違いはさておき、日本鍼灸を大きい傘のような概念にしておけば、そこから取っていくことはできません。しかし、臨床家の皆さんは、日頃「これが日本の鍼灸」などとは意識されていないと思います。

—たしかに、普段は「自分の鍼灸」と思っておられるでしょうね。

田口…対象化・相対化して、少し意識してみたいと思います。韓国で行われている鍼灸は、おそらく誰でも「韓医学」だと言うでしょう。日本の鍼灸というものも確実にあると思いますが、日本では定義されておらず、ぼんやりし

ているので、表現しづらいのです。臨床では日中韓を分ける必要はありませんが、国際会議では分けなければ話ができません。臨床の先生方には、そういうところに気づいていただきたいです。

新原…具体的には、細い鍼と繊細な手技、脈診・腹診というようなものが軽視されないようにと思います。鍼灸の多様性が狭くなってしまうと困ります。

輸出と輸入

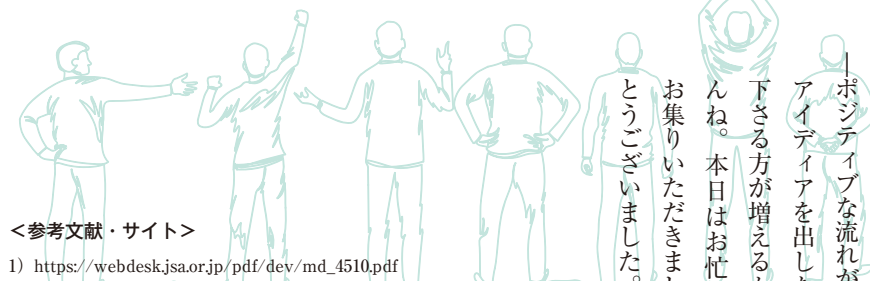
木村…今後、国際標準に準拠した製品がどんどん輸入されてくることが予測されます。なんでもメイドインジャパンが良いのかと言えば、そうでもないこともあるかと思いますが、いま日本であまりまえるように供給されている道具が、どこでどのように支えられているもので、国際標準ができることでどう変わっていくのか？道具視点で見た日本の鍼灸って何？という

ことも考えてみていただけたらと思います。

新原…日本の鍼灸関連のメーカーさんは、とても品質の良いものを作っておられると思いますが、小さい会社が多いです。輸出などの際に各国の法律などに準拠する段階をトータルにサポートするシステムがあれば、日本の鍼灸関連製品も輸出産業としてお金になると思います。日本の場合は産官学が協調して日本の道具を売る方法を考えることができれば良いですね。これは賛同が得られそうですね。

—すごく良い案だと思いますし、すぐに手をつけることができそうですね。

新原…まずは日本の鍼灸を世界の人に知ってもらわないと。いくつかの流派が世界で知られているのは、その会や会員さんが努力された結果だと思います。そういう地



<参考文献・サイト>

- 1) https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_4510.pdf
- 2) レポート ICD-11 伝統医学章新設記念講演会、あとはとき第7号、2020
- 3) 厚生労働省告示第112号：平成17年3月25日
<https://www.std.pmda.go.jp/stdDB/index.html>
- 4) さいとうたかを。未病。ゴルゴ13.192巻。リイド社、2019
- 5) North American Journal of Oriental Medicine :
<http://www.najom.org/125071254012512.html>

道な活動をしつつ、お金を儲ける、雇用に創出できるようになっていけば嬉しいですね。鍼灸の臨床技術を広めながら道具を売る流れができれば良いですね。

—ポジティブな流れが生まれれば、アイデアを出したり協力して下さる方が増えるかもしれませんね。本日はお忙しいところ、お集りいただきまして、ありがとうございました。